



香川県立香川東部支援学校  
人権・同和教育部

中学部主事 笠井 陽子



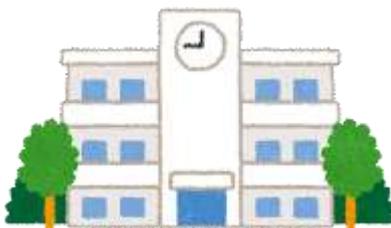
## 「 日常のなかで 」

中学部の生徒と関わるようになって、2年が終わろうとしています。私は、毎朝、スクールバスで通ってくる生徒の登校を出迎えた後、中学部の各教室を回っています。各教室で生徒に「おはようございます」と挨拶すると、元気よく「おはようございます」と挨拶をしてくれます。生徒によっては、頭を下げて挨拶を返してくれたり、にこっと微笑んでくれたり、タッチをしてくれたりなど、その子どもなりのコミュニケーションの方法で挨拶をしてくれます。みんな元気に登校してきてくれたことをうれしく感じる瞬間です。

毎日の関わりのなかで普段の教科の学習以外に、いろいろなことに取り組んでいる子どもたちを見えています。パソコン入力の練習、制服や荷物の片付け、腹筋・腕立て伏せ・ランニング・器具を使った運動・踏み台昇降などの体力づくり、窓ガラスの掃除、ひも結びの練習、手芸的なことなどにそれぞれ取り組んでいます。日々、繰り返し取り組むことによって、子どもたちはできなかったことができるようになったり、はやくなったり、上手になったりしています。子どもたちのそういう場面を見て、本人たちに「すごいね」とか「上手にできるようになったね」、「ありがとう」などと言葉を掛けるとうれしそうな表情をしてくれます。それぞれの子どもの成長や頑張りを実感し、うれしく感じる瞬間です。

また、子どもたちは私たちが思っている以上に友だちとの関わりをもちながら学校生活を送っています。給食の献立放送が苦手なクラスメイトが原稿を頑張って読むことができたらしら自分のことのように喜んでいいる姿、保健体育の授業で友だちと作戦を考えながらポッチャをしている姿、体育館で汗を流しながら友だちと一生懸命ドッジボールをしている姿、準備が遅れている友だちを静かに待っている姿、友だちのちょっとした変化にも気付いて声を掛けてあげる姿などを見えています。大人が感心する場面をたくさん見ることもあります。そういった友だちとの関わりのなかで、相手のことを考えたり、思いやりたりして、ともに成長しているのだなあと思い、うれしく感じる瞬間です。

これからも元気に登校し、少しずつでもできることが増えて、友だちや周りの人と関わりながらいろいろな経験を積み重ね、成長して行ってほしいと願っています。それを近くで応援し続けられたらと思っています。



## 人権作品制作の様子

11月25日に行われた若竹祭に向けて、各部で人権作品を制作しました。出来上がった作品は、図書室前に掲示しました。ここでは、各学部の制作中の児童生徒の様子を紹介します。

### ○小学部○【おおきなかぶ ～みんなで力をあわせて～】

9月にあった人権教室で学習した「おおきなかぶ」のお話を題材にして、大きなかぶを制作したり、かぶを引っ張る自分の顔を描いたりしました。人権教室で学んだことを振り返り、「みんなで協力すること」や「友達と仲良くすること」が大切だと改めて気付くことができました。そんな思いを込めて、友達と一緒に白色の花紙を張り付けたり、クレヨンで色を塗ったりして、大きなかぶを完成させることができました。また、出来上がった自分の体を友達にくっつけて並べ、友達と一緒にかぶを引っ張る様子を表現すると、うれしそうに眺める児童もいました。



### ○中学部○【うれしかった言葉・物】

今まで言われてうれしかった言葉や物をカードに書いたり、イラストや写真を貼ったりしました。「友達から仲良くしようね。」と言われたこと、けがをした時に「大丈夫?」と心配してくれたこと、「一緒に写真を撮ろう」と言われたこと、「ありがとう」、「かわいい」、「がんばれ」、「心強い」、「頑張っ」等のうれしかった状況や言葉をよく覚えていて、たくさんの言葉が出てきました。もらってうれしかった物としては、誕生日のプレゼント等が出てきました。うれしくなる言葉をお互いに発表することで、理解が深まったり相手の気持ちが分かったりするよい機会になったようです。



### ○高等部○【言われたい言葉「～こんな言葉、待ってます～」】

言われてうれしい言葉を考え、シールを貼ったり色を塗ったりして思い思いにカードをデザインしていきました。優しい表情で活動していたのが印象的でした。お互いの作品を見て、「いいやん」「上手やね」と、言い合ったりしながら、温かい言葉でやり取りができていました。「得意なことを褒めてくれるとうれしい」など、ポジティブな言葉がたくさんでてきました。言われてうれしい言葉は相手に言っても喜ばれる言葉だと分かったようです。また、言葉のカードを分類して表に貼ったり、場面を設定し、どんな言葉を言われたらうれしいかを考えたりしたクラスもありました。「言葉の力」によって温かい気持ちになったり、やる気や、元気が出たりすることに気づくことができました。



## 民生委員交流

本校では、コロナ禍のため一時中断していた地域の民生委員の皆さんとの交流が昨年度から復活しました。今年度も、5月に民生委員さんを全校集会で紹介し、10月には生徒会役員と一緒に朝のあいさつ運動に参加していただきました。11月の若竹祭では、長尾地区だけではなく、さぬき市の民生委員さんも来校していただきました。各学部でも楽しい交流が行われましたので、その様子を紹介させていただきます。

### 小学部

7名の民生委員の方々と、交流会を行いました。始まりの会では民生委員さん達と一緒に曲に合わせて楽しく踊り、クラスに分かれての活動では、電車ごっこやゲーム、風船バレーなど、各学年の児童の好きな活動と一緒にを行うことで、交流を深めることができました。風船バレーでは、民生委員さんが風船を相手コートに送りつつ児童を応援したり、コートの外でもたくさん話しかけてくださったり、楽しい思い出ができました。どの学年も、心に残る素敵な交流会になりました。



### 中学部

1年団が、9月22日(金)に南川キャンプ場での校外学習で、5名の民生委員の方々と一緒にオリエンテーリングを楽しみました。それぞれのポイントで待つ民生委員の方々と、ベーゴマやたこつり、ボーリングなどのゲームをしました。民生委員の方からベーゴマの回し方を教えてもらったり、たこがたくさん釣れるように応援してもらったりして、温かい雰囲気の中、交流を深めることができました。



### 高等部

12月5日(火)、1~3年生の保健体育の授業に、6人の民生委員さんが参加していただきました。本校生のチームに1人ずつ民生委員さんが入り、トーナメント形式でボッチャの試合を行いました。



皆さんが生徒を励ましたり、ハイタッチしたり、声援を送ってくださったりするうちに、生徒たちが、いつもより一層生き生きとした表情になっていたのが印象的でした。はつらつとした民生委員の皆さんに、たくさんパワーを分けさせていただきました。



## 胸の泉に

塔 和子 作

かかわらなければ  
この愛しさを知るすべはなかった  
この親しさは湧かなかった  
この大らかな依存の安らいは得られなかった  
この甘い思いや  
さびしい思いも知らなかった

人はかかわることからさまざまな思いを知る  
子は親とかかわり  
親は子とかかわることによって  
恋も友情も  
かかわることから始まって  
かかわったが故に起こる

幸や不幸を積み重ねて大きくなり  
くり返すことで磨かれ  
そして人は  
人の間で思いを削り思いをふくらませ  
生を綴る

ああ  
何億の人がいようとも  
かかわらなければ路傍の人  
私の胸の泉に  
枯れ葉いちまいも  
落としてはくれない



『未知なる知者よ』(海風社、1988年)などに所収

泉の波紋  
～「胸の泉に」に込めて～

本校職員 作

泉がこんこんと湧き上がっている  
尽きることなく湧き上がっている

泉が枯れるほどの  
大きな不幸に出会ったとしても

泉が濁るような  
苦々しい思いを抱いたとしても

日々泉は湧き上がっている

何も恐れず  
ありのままの姿で  
かかわっていかうではないか

かわりから生まれた  
泉の波紋は  
人を励まし  
勇気づけているのだから



高松港からの官有船で30分の島、大島。そこに国立療養所大島青松園があります。この詩は、島で暮らし、2013年、83歳で召天したハンセン病回復者、塔和子さんの詩です。

塔さんは、13歳で発病し、両親や兄弟（塔さんは、8人兄弟の3番目でした。）と離れ、見知らぬ小さな島で隔離生活を送るようになりました。当時、どのような思いで、ふるさとを離れ、見知らぬ島に渡ったことでしょうか。病気は、プロミンという特效薬で癒されましたが、70年間、後遺症のために同園にとどまることになりました。

塔さんは「詩を作ることは生きること」と語っていました。その言葉のとおり、塔さんの詩からは、リアルな人の本質を強く感じるができます。そして、今でも詩を通して、多くの人とかかわり、励まし、勇気づけています。

<参照>

□NHKアーカイブス「あの人に会いたい」File No.471

[https://www2.nhk.or.jp/archives/articles/?id=D0009250471\\_00000](https://www2.nhk.or.jp/archives/articles/?id=D0009250471_00000)

□「胸の泉に」塔さんの詩にシンガーソングライターの沢知恵さんが曲をつけました。

[https://www.youtube.com/watch?v=ydMMS\\_fw\\_5s](https://www.youtube.com/watch?v=ydMMS_fw_5s)

□青松「詩人・塔和子特集」2013.11、12 第673号 ※大島青松園で発行している冊子

## 第74回全国人権・同和教育研究大会報告

11月25日(土)、26日(日)の2日間、第74回全国人権・同和教育研究大会が兵庫・大阪・京都において「つなぐ かがやく ゆめひろく～だれ一人とり残さない社会の創造をめざして～」のテーマのもと開催されました。私は京都府八幡市の会場に参加しました。

分科会では、「進路・学力保障」で、4つの発表を聴きました。香川中部支援学校の発表「支える力、つなげる思い」では、一人の生徒が小学部から高等部にわたり、技能的な面だけでなく、人とかわる力や目標を見つけ達成のために努力することなど、進路実現に向けて成長していった様子が発表されました。和泉市立信太中学校の発表「人の気持ちを理解できる頼られる人でありたい」では、人とのコミュニケーションが苦手なAさんに、担任の先生が寄り添い、時間をかけて信頼関係を築いていった様子が発表されました。滋賀県立栗東西中学校の発表「自分を識(し)る」では、不登校のAさんが通級指導の中で自分のことを言葉で表現する機会を多くもち、自分を識ることで、やりたいことを見つけ前に進んでいく様子が発表されました。宇治中学校の発表「先生、この問題どうやって解くの?」では、勉強が苦手な、高校入試に前向きに取り組めなかったAさんに対して担任の先生が家庭訪問を繰り返し、行きたい高校について一緒に考えた結果、自発的に受験勉強に取り組むようになり高校でも頑張っていることが伝えられました。

それぞれ討議では、生徒の願いを聞くことや輝く場を設定すること、進路保障の最終目標は「地域に居場所を作ること」、生徒が安心して「困っていること」を話せるような信頼関係を築くことなど、全国大会ならではのさまざまな意見や体験を聞くことができ、とても勉強になりました。日々の支援に生かしていきたいと思えます。

◆八幡(やわた)市 豆知識◆  
八幡市の会場がある石清水八幡宮駅前には、大きな竹のオブジェがありました。あのエジソンが、白熱電球の実験に八幡産の真竹を使って1000時間点灯に成功し、実用化に至ったとのこと。

## 第25回辛立文化センター冬のつどい



1月27日(土)に「辛立文化センター冬のつどい」がありました。4年ぶりの開催となり、たくさんの方でにぎわっていました。本校の授業参観があった午前中には、前回の人権だよりで紹介した阿波木偶(でこ)「三番叟(さんばそう)まわし」の講演と実演もあったそうです。バザーや餅つきの他、ポッチャ体験、ふ

れあい動物園など、楽しい催しがたくさんありました(個人的にはハリネズミが可愛かったです)。本校の人権作品も駐車場に展示していただきました。毎年開催されていますので、機会があれば皆さんもぜひお立ち寄り下さい。

